

心を磨く

導師 現楠

高祖日蓮大聖人は『崇峻天皇御書』において、
「蔵の財よりも身の財すぐれたり。身の財より心の財第一なり」
とお説きになっておられます。

——資産・私財といった物質的な豊かさは、生活を営んでゆく上で必要ではあるが、それ以上に健康な身体や、自身が持つ技能の方が大切である。

そして何よりも重要なのは、精神的な豊かさである。

心に積んだ徳や豊かさこそが、最大の財産である。——

との意と、拝察します。

常住不滅の信心前を確立し、崇高な人間性を養いなさいということです。

しかし現代は、心の財より蔵の財が第一となっているように思えます。

昨今報道される凶悪な事件は、このことが原因の一つではないかと考えています。それゆえ、犯罪の低年齢化を危惧きぐしています。

ある男性のエピソードをご紹介します。

——混雑した電車の中で子どもに足を踏まれた。

しかし、子どもは無言でスマホゲームに夢中である。

これはいかんと、

「人の足を踏んでおいて黙だまっていたらだめでしょう。『ごめんなさい』は？」

と、優しく声をかけたが知らぬふり。

悲しいことだが、これが我が国の現実なのかもしれない。

人におつかつても、謝ろうとしない人が増えた。

道を譲ゆずっても、当然のように無言で通り過ぎる。

大人がそうだから、子どももそれで良いと考えてしまうのだ。

かつては、そんな人は稀まれだった。悪いことは悪いのだ。

間違まちがつてであれ、人の足を踏んでしまったら「ごめんなさい」とか「すみ

「ません」と、謝らなくてはならない。さもないと、人間関係がギクシヤクし、殺伐とした世の中になってしまふのだ。

電車の中の些細な出来事であったが、やはり最低限の道德教育は必要だと痛感した。――

以上ですが、いかがでしょうか？

私の身の回りでも「人におつかつても謝らない」「道を譲つても会釈すらしない」人が増えたような気がします。それどころか、わざと身体をおつかつてくるような、荒んだ心の持ち主の人もいます。

公共空間ですれ違いざまに、故意に体当たりなどの暴行を行う人がいます。加害者は中年男性が多く「ぶつかっておじさん」などとも呼ばれている。全くもつて世知辛い世の中になってしまいました。

子どもも大人も善根功徳を積み重ね、感情が穏やか、かつ精神的に満たされ、潤った心を育んでいただきたいと、しみじみ感じております。

お教歌に、

「かほかたち つくらふものは おほけれど 心をみがく 人はすくなし」

と、あります。

やはり肝心なのは「心」ではないでしょうか。

「心を磨く」ということが、いかに大切であるか、ということですが。

当会には、小学校一年生から六年生を対象とした「少年団」という組織があります。毎年八月には「ししく少年団サマーキャンプ」を開催しています。太鼓やお教歌のお稽古、レクリエーションなど、ご信仰に基づいた内容の合宿を行っております。

子どもたちの心を磨き、さらには信心相続を目的としていますが、前述のエピソードにある「道徳教育」につながるのではないのでしょうか。

値いがたいご法にお出値いささせていただいた私たちは、信行精進をはかりながら、心を磨いております。

その喜びを自分だけのものとせず、子や孫、延いては世の中の多くの人々と分かち合いたいものです。そのためにも、信心相続、教化ご弘通に邁進していこうではありませんか。

ありがとうございました。